

令和3年度

上市町教育委員会事務管理執行状況等点検評価報告書

上市町教育委員会

1 委員等選任状況

令和4年3月1日現在

職	氏名	年齢	性別	元教諭	任期	通算在任年数	役職任期及び通算在任年数	常勤・非常勤の別	保護者
教育長	牧田 康博	64	男	○	R3.4.1~ R6.3.31	11月	教育長： R3.4.1~ (11月)	常勤	
教育長職務代理者	堀田 基文	51	男		R2.10.1~ R6.9.30 (H28.10.1~ R2.9.30) (H24.10.1~ H28.9.30)	9年5月	委員長： H26.10.1~H27.3.31 (6月) 委員長職務代理者： H25.10.1~H26.9.30 (1年) 教育長職務代理者： H27.4.1~H27.9.30 (6月) R2.10.1~ (1年5月)	非常勤	
委員	高島 善与	67	男	○	R1.10.1~ R5.9.30 (H29.10.1~ R1.9.30)	4年5月		非常勤	
委員	碓井三恵子	46	女	○	R2.10.1~ R6.9.30	1年5月		非常勤	○
委員	郷田 千秋	64	女	○	R3.10.1~ R7.9.30	5月		非常勤	

2 会議開催状況

(1) 会議開催数

定例会	12回
臨時会	1回

(2) 付議案件数

議案	16
報告事項	16
請願	0
その他	18
計	50

(3) 会議に付された主な案件

- ・ 教育長職務代理指名の件
- ・ 令和4年度上市町教育目標及び学校教育基本方針決定の件
- ・ 上市町スポーツ推進員委嘱の件
- ・ 社会教育委員委嘱の件
- ・ 小学校のあり方検討について
- ・ 上市町学校運営協議会規則の制定について
- ・ 上市町学校給食費取扱規則の制定について

このほか、町議会に提出される予定の議案に対する意見について付された。

(4) 視察等

学校訪問	7
先進地視察	0
県・地方教委研修	1
計	8

先進地視察 : 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

県・地方教委研修 : 県内各教育委員会（富山県市町村教育委員会連合会）

3 評価総括表（令和3年度事業）

重 点 目 標	担 当 班
主な事業	
不登校児童・生徒相談支援	学校教育班
小学校外国語活動の推進	学校教育班
教員の働き方改革の推進	学校教育班
放課後子ども教室の充実	生涯学習班
公民館の充実	生涯学習班
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進	生涯学習班
「スポーツ・イン・ライフ」の実践	生涯スポーツ班
生涯に渡りスポーツを楽しむ環境の整備	生涯スポーツ班
スポーツ施設の整備	生涯スポーツ班

成果・効果

[学校教育]

「心身ともにたくましく心豊かに生き抜く児童・生徒を育てる。」「創造性に満ち、主体的に学び続ける意欲・態度・能力を持った児童・生徒を育てる。」を指導方針に掲げ、保護者と地域、学校が連携して子育てを行う教育を目指している。

小中各校のグラウンド整備を含めた今後の大規模修繕等の計画については、小学校のあり方についての方向性等の動向も見据えながら、当面、取り留めておく。

各学校においては、児童・生徒一人ひとりの個性を尊重し、基礎基本を定着させる教育の充実を教育行政の取り組みの基本として進めている。

昨年度、整備されたICTに対応した学習環境を学校現場において有効に活用されるように、ICT支援員を2名配置した。授業計画の作成支援、ICT機器の準備・操作支援、校務支援システムの活用支援などを行っている。また、GIGAスクールで整備した端末やソフトウェア等が十分に活用できるよう、全小学校の普通教室のテレビを電子黒板機能を備えた65インチ大型テレビに更新し、さらなる学習環境の充実に努めている。

小学校の外国語については、今年度より『音と文字をつなぐ』学習法である「フォニックス」を導入した。教員のサポートとして配置している外国語指導助手が中心となって指導している。

不登校・いじめへの対応については、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用も含め、早期対応と支援に努めている。不登校については、教室外登校の児童生徒も多くいることから、今後も、小中の連携構築を図るとともに、一人ひとりへのカウンセリングや家庭への支援も含め、自己肯定感を培う、粘り強い継続した取り組みが必要である。また、子育て世代からの要望により今年度から学齢期の子どもを持つ保護者に向けた悩みごとの相談を受け付けるため「幼児ことば教室」内に相談窓口を開設し、町教育センターの発達支援アドバイザーが相談員として対応している。いじめについては、各学校での積極的な認知を呼びかけてきたことから、件数が増加しているが、いじめの捉え方など教職員の認識に変化が出始め、早期の発見・対応につながってきている。

また、特別な支援を要する児童の学校生活を支援するため、全小中学校にスタディ・メイトを配置しており、その効果は大きい。学校の派遣要望に対応するため、引き続き人材及び財源の確保に努める必要がある。さらに、障がいを早期に発見することにより、適切な療育・教育機会の提供が行えるよう、町教育センターに発達障害支援アドバイザーを配置している。発達障害支援アドバイザーを中心に、学校や保育所などの関係機関が連携し、支援を進めてきたことにより、保護者の方々や関係者の通級指導教室も含めた特別支援教育への理解が深まっている。また、今年度は教育支援員を配置し、各小中学校からの要望に応じた教育支援を行っている。

コロナ禍の中、昨年度は未実施だった通学路の安全点検については、今年度は実施することができたが、中学校の修学旅行の変更や、「ふるさと学習」などの課外活動、運動会や学習発表会などの学校行事は感染対策をしながら実施している。

新型コロナウイルス感染症の影響はまだしばらくは続くものと予想されるが、感染の状況を注視し、引き続き感染症対策を進め、地域の協力を得ながら「地域とともにある学校」という観点を第一義に捉えた魅力

あふれる学校づくりを引き続き進めていく。

教員の働き方改革については、各校独自の工夫により事務負担の軽減を行うなど、自己管理を中心に、少しずつ教職員の意識が高まってきている一方、新型コロナウイルス感染症に伴う消毒作業など、負担感も増加したが、行事が大幅に見直されたことにより結果的に時間外勤務が減少し、働き方に好影響を与えていると考えられる。また、今年度は各学校に業務時間外の電話に対する音声ガイダンス機器を導入している。

[生涯学習]

人々に学ぶ喜びや感動を与え、達成感・生きがいをもたらす生涯学習の推進に取り組んでいる。

各公民館においては、公民館職員自らが企画する公民講座、行事の開催や、地域の諸活動の拠点として、地域住民の方に利用される施設を目指している。しかし、昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度当初から大人数が参加する行事の中止、公民講座についても活動内容の変更を余儀なくされた。また、地域活動、各種団体の利用時においても、飲食を伴った利用の自粛など、活動縮小を依頼することとなった。しかし、コロナ禍であっても、できる範囲での公民館活動を実施することを念頭に、基本的な感染症対策のほか、参加者名簿の作成、参加者の人数制限、飲食物の完全テイクアウト化など、必要な対策を実施し行事を開催した。公民館の利用者は高齢者が多いことから、現在、感染症対策を徹底し、地域での感染状況を考慮しながら公民館活動を継続しているところである。

また、「ふるさと町民学園」は、受講者が楽しく集い、共に学ぶことを大切にしながら30年以上事業を実施しているが、昨年度と同様、新型コロナウイルスの影響により例年の半分程度の回数となった。しかし、密を避けるため3日に分けて同じ講座を実施したり、例年と同程度の内容を盛り込むため1日3講座を実施したりすることで、昨年度よりも200名以上多い、延べ1,339名の受講があった。同様に、小・中学校や公民館で実施している放課後子ども教室についても、例年通りの実施ができなかったため回数は減少したものの、各教室がそれぞれ工夫して実施することによって、昨年度より延べ参加人数は増加した。

「史跡 上市黒川遺跡群」の保存整備に関しては、平成24年度に策定した「整備活用基本計画」にある整備・活用の方向性に沿って、平成26年度に測量・基本設計と段階的に事業を進め、平成28年度より本格的に保存整備に着手したところである。

今年度は昨年度までに実施してきた遺構保護盛土について、流出防止の固化舗装を行った。

[生涯スポーツ]

生涯スポーツにおける各種イベントの参加者数は、多くの住民がスポーツを実践し、健康づくりや生きがいにつながるよう、そして活力のあるまちづくりを推進していくうえでも、重要なひとつの指標である。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、主要事業は町民スキー大会を除き中止にしたことから、今年度は、ウイズコロナを念頭に3密にならない大会運営方法を策定した。マラソン大会は中止にはなったが、開始式は省略し、受付時間やスタート時刻を分散、周回コースは取りやめ参加者が錯綜しないよう配慮するなど運営面の検討を行った。町民スキー大会については、グレンデを整備する圧雪車が大会直前の大雪により故障したため中止になったが、大会〆切を総合型クラブのスキー教室後に設定したこと等も奏功し、前年に比べ10人程度の参加増につながった。

東京 2020 オリンピック聖火リレーの沿道観覧事業は開催直前に中止になったが、上市町にゆかりのある聖火ランナー 2名の聖火リレーに係る思いをトーチ巡回事業を通して小学校の子どもたちなどに感じてもらうことができた。

体育施設の利用については、各種スポーツ団体を中心に利用者の固定化が見受けられ、ここ数年は、全体としては横ばいで推移している。今後とも適切な維持管理に努め、安全かつ快適に利用できる環境を維持するとともに、誰もが気軽にスポーツに親しめるよう総合型地域スポーツクラブと連携して講座や教室等を開設するなど、引き続き、利用促進に努めていく。

部活動地域移行については、令和 5 年度から全国的に取組みが開始されるものであり、町内においても町体育協会や各スポーツ団体等と検討会を実施した。将来の子ども数の推計や中学校部活動の現状を知ってもらい、子供たちのスポーツをする環境を残していくために、部活動の地域移行は必要不可欠であることを周知できた。次年度はこの検討を継続するとともに、地域クラブの設置を目指していきたいと考えている。

プレゴールデンエイジ期の幼児、児童を対象に実施する健康運動能力向上支援事業においては、幼児期から継続的に実施することで、運動習慣の定着といった成果が見られ、保育所（園）や小学校教員が普段行う指導に結びつく指導方法の共有という観点から継続して実施していく。

問題点

[学校教育]

いじめや不登校、その他の学校内でのトラブルについて、その要因には幼少期からの障がいへの理解の不足や家庭環境なども影響を与えていることから、今後は福祉部局と連携した子ども家庭総合支援の取組みが必要とされてきている。今年度、福祉部局に子ども家庭総合新拠点が設置されたことから、幼保・小中も含め、乳幼児期からの包括的な一貫した相談や支援の態勢を、関係機関が共通理解のもと、進めていく必要がある。また、適応指導教室に配置する職員の見直しを図る必要がある。

また、ICTを活用し、個々にあった学びを進めていくことが重要と考えており、さらなる活用を図るため、教師用のタブレットの整備を図っていく必要がある。

新型コロナウイルス感染症により、子どもたちや学校を取り巻く環境はまだ厳しい状況が続くことが予想されることから、心のケアや奨学資金の減免などの経済的な支援の充実についての検討が必要となっている。

教職員の働き方改革への視点も十分に踏まえながら、業務内容の改善を図るためプールの授業の見直しや教室のワックスがけの業務委託を進めていく必要がある。

また、給食費の定額化により、学校における業者への支払い事務の軽減化を図るとともに、学校間での献立の差異をなくすことで、より子どもたちに安定した給食の提供を行う必要がある。

[生涯学習]

「公民館講座」や「ふるさと町民学園」は長年の受講者を中心に一定の参加者を確保してきているが、一部講座のマンネリ化や受講者の固定化が見受けられること、また、人口減少社会に向かう中、地方創生とし

での地域コミュニティの活性化につなげるために、幅広い世代が参加できるよう、運営形態の見直しなども含め、継続して改善に努める必要がある。

各公民館で発行している公民館報や町広報等により、公民講座、行事等の情報発信を行っているが、公民館利用者の口コミによる情報伝達も大きいことから、新型コロナウイルス感染症の影響により、公民館活動が制限され、公民館利用者が減少している中で、情報発信の方法について考える必要がある。

各公民館のホームページシステム（とやま公民館学遊ネット）が令和4年度にリニューアルし、スマートフォンの画面サイズに合わせた最適なデザインでの情報提供が可能となることから、今後はインターネットでの積極的な情報発信により幅広い世代にアピールすることも重要である。

また、地区公民館に図書館の蔵書が配置されていることは、地域の読書環境充実にに関して有益なことであるため、今後は、その存在の更なる周知に加え、地域の利用者が手に取って読んでみたいと思う蔵書の配置について、図書館と連携しながら対応することが重要である。

「史跡 上市黒川遺跡群」の保存整備に関しては、国（文化庁）の補助金が要望額を大きく下回る状況が続いているため工事の発注がこま切れとなっており、当初の計画に遅れが生じてきている。早期の保存整備工事完了と更なる活用事業の展開を目指し、補助金の獲得に向けた国・県との協議を進める必要がある。

[生涯スポーツ]

スポーツが多様化していく中で、スポーツを「する・みる・ささえる」といった町民のスポーツに対する意識をより幅広い年代に広めていく必要がある。

今年は「剣健康マラソン大会」を開催するため参加者の動線や分散スタートなど密集しないよう感染予防対策に配慮し、運用方法を工夫したが、例年以上の運営に必要なスタッフ数を確保できずやむなく中止になった。今後スポーツイベントは内容を見直していくが、限られたスタッフ数で運営できるよう考慮する。

各種スポーツイベントは、近年のイベント参加者の減少やスポーツに対するニーズの多様化などから町体育協会をはじめとするスポーツ団体と共に見直しを始めたところである。町民がスポーツに親しむことで心身ともに健康で充実した生活を営むことができるように、町・スポーツイベントを運営する関係団体及び参加する町民が共に望むスポーツニーズを適切に反映させた持続可能な大会を企画立案していく必要がある。

総合型スポーツクラブに関しては、中学校部活動地域移行において地域の各競技協会やクラブチーム等と連携をとり、子供たちのスポーツ活動機会の確保に携わることで、地域にとって必要とされる「存在感」のあるクラブとして認識されるような運営が必要である。拠点となる体育施設も全面改修を行い、新たにクライミングウォールも設置された。今後も町民のニーズに合わせた特色ある講座や教室の開催、イベントの見直し等を通じて、スポーツ活動の推進に寄与することが必要である。

外部学識経験者の意見 (富山大学人間発達学部教授 笹田 茂樹)

学校・保育所、家庭、地域が一体となって、子どもたち一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす教育を目指し、様々な取組が実施されている。

特に、部活動地域移行への検討や、学校行事の削減など、教員の負担を減らすことで、喫緊の課題である「教員の働き方改革」に対応しようとする姿勢がうかがえる。

また、コロナ禍に対応する形で「ふるさと町民学園」の受講者数の延べ人数を増やしたり、スポーツイベントの運営方法を工夫するなど、生涯学習・生涯スポーツの推進でも成果を挙げた。

評価 (富山大学人間発達学部教授 笹田 茂樹)

学校教育、生涯学習、生涯スポーツのいずれにおいても、概ね目標は達成されている。

上述したように、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、様々な工夫を凝らすことで町民のより良い学びを実現しようという意欲が全般的に見受けられた。

今後は、地域学校協働本部事業やコミュニティスクールなどの国の施策を上手く利用しながら、学校教育や公民館活動などにおいて、地域社会と一体となって教育政策を推進していくことが望まれる。

外部学識経験者のプロフィール

富山大学人間発達学部教授

笹田 茂樹

専門分野

教育行政学

経歴

- 1982年 慶応義塾大学文学部史学科 卒業
2001年 神戸大学大学院総合人間科学研究科（博士前期課程）人間発達科学専攻 修了（修士（学術））
2007年 神戸大学大学院総合人間科学研究科（博士後期課程）人間形成科学専攻 修了（博士（学術））
- 1982年 株式会社日本交通公社入社 神戸三宮支店勤務（1984年まで）
1986年 兵庫県高等学校社会科教員として採用される。（2009年まで）
2009年 富山大学人間発達科学部 准教授（2016年～ 同大学 教授）

主な著書

- 2006年『現代教養論』（共著）（学文社）、
2009年『リーディングス日本の教育と社会 教師という仕事』（共著）（日本図書センター）
2010年『地域教育の構想』（共著）（同時代社）など

社会活動

- 富山県民生涯学習カレッジ富山地区センター運営会議委員長
富山市教育委員会事務管理執行状況点検評価委員
富山市教育振興基本計画懇話会委員（2019年）
魚津市教育振興基本計画策定委員会会長（2014～2015年）

令和3年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	不登校児童・生徒相談支援
目標とする指標	1・2学期の不登校、教室外登校児童・生徒の人数		

1 目標数値

年度別 きない 目標 数値等 の方向 (数値化)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和3年度末実績	
	令和3年度	不登校、教室外登校児童・生徒の人数(1・2学期) [不登校]			不登校、教室外登校児童・生徒の人数(1・2学期)
	目標年度	小学校 0名 中学校 19名	0名 10名	7名 13名	
	令和7年度	[教室外登校] 小学校 2名 中学校 6名	0名 5名	2名 4名	

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
適応指導教室の運営	不登校の児童・生徒が再登校を目指せるよう、上市町適応指導教室に指導員2名を常時配置し、児童・生徒の対応にあたる。
スクールカウンセラーの配置	県教育委員会が全小中学校にスクールカウンセラーを各1名配置し、児童・生徒のカウンセリングにあたる。
スクールソーシャルワーカーの配置	社会福祉士であるスクールソーシャルワーカーを上市中学校、教育センターに配置し、主に不登校の傾向にある児童・生徒やその家庭への働きかけなどの対応にあたる。
子どもと親の相談員の配置	学校生活や家庭生活での子どもや親の不安や困り感に対応するため、今年度より県事業を活用し、相談員を1校に配置し、家庭支援にあたる。
悩みごと相談窓口の設置	学齢期の子どもを持つ保護者に向けた悩みごと相談窓口を上市児童館2階の幼児ことばの教室内に設置。教育センターの発達支援アドバイザーが相談にあたる。

3 令和3年度末実績の点検及び評価

<p>不登校児童・生徒の数は、スクールカウンセラーの配置や町教育センターに配置した発達障害支援アドバイザーを中心に相談・支援体制の充実を図ってきたことから、減少傾向にあった。しかしながら、昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響などのため、家庭環境が悪化している家庭が多く見られる。このため不安を抱え不登校傾向になっているが、特に小学生の不登校が多くなっているように思われる。</p> <p>学校になかなか登校することができない児童・生徒に対しては、子どもと保護者に寄り添ったケアに取り組むことが大切である。学校でも引き続き担任の家庭訪問を含めスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家と連携を取りつつ、相談・支援していく必要はあるが、児童虐待の状況も考えられるため、福祉部局と連携した家庭支援体制の構築を進めることが求められる。</p> <p>評価: 今後も、関係者が一体となって不登校の児童・生徒や保護者をケアしていく必要があるが、不登校の要因の一つであるいじめ等へのより早期からの対応に加え、家庭支援にも取り組んでいくことが必要であることから、今年度福祉部局に子ども家庭総合支援拠点が設置された。また、学齢期の子どもを持つ保護者に向けた悩みごと(不登校など)相談窓口を設置した。</p> <p>引き続き、コロナ禍における子どもたちへの心のケアが必要である。</p>
--

令和3年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	小学校外国語活動の推進
目標とする指標	アンケート結果の「とても楽しい」回答率		

1 目標数値

年度別目標数値等（数値化できないものは方向）	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和3年度末実績
	令和3年度	40%	60%	40%
	目標年度			
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
外国語指導助手の配置	各小学校に4名配置。英語での会話や発音のモデルとなり、担当教員の授業をサポートする。フォニックス指導を担当する。
外国語指導研修の実施	小学校外国語活動の指導力向上を促すため、年3回程度開催する。
フォニックスカードの導入	アルファベットごとの単語をイラストとつなげて子どもたちが覚えやすいように、フォニックスカードを作成する。

3 令和3年度末実績の点検及び評価

外国語教育の目標の一つとして、「英語を聴いて書ける」力を子どもたちに育むことをめざすため、今年度、小学校3、4年生の外国語活動、5、6年生の外国語科のすべての授業において「フォニックス」を導入した。令和3年度末に児童アンケートを実施し、フォニックス活動が「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「あまり楽しくない」「全然楽しくない」の4項目で回答してもらい、約40%の児童が「とても楽しい」と回答した。今後は、外国語指導研修の実施などによりアンケートの「とても楽しい」率を上げていく必要がある。

令和3年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	教員の働き方改革の推進
目標とする指標	教員の時間外勤務の削減		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化できないものは方向)	基準年度	基準数値		令和7年度目標		令和3年度末実績	
	令和3年度	教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間		教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間		教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間	
	目標年度	小学校 中学校	35.8時間 65.0時間	小学校 中学校	20時間 50時間	小学校 中学校	35.8時間 65.0時間
	令和7年度						

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
ICT支援員配置事業	ICT支援員を配置し、教員のICT活用を促進し、業務改善につなげる。
留守番電話設置事業	音声ガイダンス対応の留守番電を設置することにより、時間外の間合せ等に備え、時間外対応の軽減につなげる。
地域部活動推進事業	地域の各競技協会、スポーツ少年団、スポーツ指導者等と連携し地域に新しくクラブを設置し、中学校部活動を移行することにより、教員の負担軽減につなげる。

3 令和3年度末実績の点検及び評価

今年度は、ICT支援員2名を配置し、授業計画の作成支援や校務支援システムの活用支援などICTを活用した業務改善の手助けを行った。また、各学校に留守番電話を設置し、業務時間外の電話に対する音声ガイダンス対応を導入し、勤務時間外の間合せ等に備えた。

今後は、プール授業や教室のワックスがけなど教員の負担となっている業務の見直しを行い、業務委託を行うなどして、負担軽減を図っていききたい。また、部活動の地域移行などにより中学校での教員の負担軽減に取り組んでいきたい。さらに給食の公会計化をすすめ、学校事務の負担軽減につなげたい。

令和3年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	放課後子ども教室の充実
目標とする指標	放課後子ども教室の利用延べ人数		

1 目標数値

年度別 き ない 目 標 数 値 等 の 方 向 は 数 値 化 で	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和3年度末実績
	令和3年度	放課後子ども教室 利用延べ人数 14,653人	利用延べ人数 14,700人	利用延べ人数(見込み) 12,135人
	目標年度			
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
放課後子ども教室推進事業	<p>放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、学習や体力づくり、文化活動などの、体験・交流活動の機会を提供する教室を実施している。</p> <p>また、中学校では、放課後に教員OBや大学生による学習支援を行う教室、各公民館では、子どもたちの居場所づくりとして、工作教室や料理教室などの体験学習を中心に、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現することを目的とした教室を実施している。</p>

3 令和3年度末実績の点検及び評価

<p>今年度も新型コロナウイルスの影響で、年度の途中で中止になる教室がいくつかあり、計画通りの実施が困難であった。</p> <p>大学生の指導者確保が困難な教室では、教員OBの指導者を増員したり、体験学習を行っている教室では、参加者が多い時は、同内容の教室を数回に分けて行うなど、各教室ごとに様々な工夫をしながら実施した。</p>

令和3年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	公民館の充実
目標とする指標	公民館講座受講者数		

1 目標数値

年度別目標数値等 (数値化できないものは方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和3年度末実績
	令和3年度	33,976人 講座受講者延べ人数	34,000人/年間	21,000人
	目標年度		170,000人 (R3~R7延べ人数)	講座受講者延べ人数 (見込み)
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
公民館講座開催及び行事の実施	各公民館で開催している公民館講座のPRに努めるほか、公民館での行事実施により、町民が公民館を訪れる機会を創出することで公民館を知ってもらうように努め、講座参加者の増加につなげたい。
公民館環境の充実	高齢利用者へ対応するため、必要な公民館へ机、椅子等を整備するほか、必要な施設修繕の実施により館内で快適に過ごすことができるように努めたい。
地域での読書環境の充実	上市図書館の蔵書の一部を地区公民館に配置することにより、読書に親しむ環境が町民の身近な施設で提供できるよう努めたい。

3 令和3年度末実績の点検及び評価

<p>公民館講座、行事等については、各公民館で定期的に作成し、世帯に配布している「公民館報」や、「広報かみいち」、「ケーブルテレビ」等で紹介し、PRしてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一定期間、飲食や発声を伴った講座の開催制限を実施しなければならなくなったことや、多くの行事が中止になり、公民館への来館者も減少したこと等より、講座参加者の増加には結びついていない。</p> <p>公民館利用者の高齢化に対応するため、今年度は、公民館4箇所(音杉、相ノ木、白萩西部、白萩南部)にテーブル21台、宮川公民館にスタッキングチェア20脚を整備した。</p> <p>また、主な修繕として公民館4箇所(音杉、南加積、大岩、山加積)のトイレ洋式化工事、音杉公民館の畳表替え、大岩公民館の玄関タイル修繕を実施した。</p> <p>上市図書館の蔵書を公民館3箇所(音杉、南加積、弓庄)に配置しているが、年3回の蔵書入れ替えを実施し地域の読書環境向上に努めた。</p> <p>評価: 公民館に関する情報発信について、ホームページを活用するなど、これまで以上のPRに努めたい。</p> <p>また、必要な備品購入、修繕実施により生涯学習環境の充実にも努めたい。</p> <p>地域の読書環境の更なる向上のため、上市図書館と連携し、地域の要望に沿った蔵書を公民館に配置できるように努めたい。</p>
--

令和3年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進
目標とする指標	整備活用事業などの推進		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化できなものは方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和3年度末実績
	令和3年度	平成18年1月26日 史跡指定	保存整備事業の推進 活用事業の推進	黒川上山墓跡 ・保存整備工事 活用事業 ※中止
	目標年度	平成18年3月10日 上市町が管理団体に		
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業	<p>上市黒川遺跡群は、中世の文化・宗教・社会を知る上で、上市町のみならず全国的にも貴重な遺跡として平成18年に国指定史跡となった。これまで保存管理計画の策定(平成19・20年度)、史跡指定地の公有化(平成21～23年度)、整備活用基本計画の策定(平成23・24年度)、整備基本設計(平成25・26年度)と段階的に事業を進め、平成28年度からは国庫補助金・県補助金の交付を受けて保存整備事業に着手している。</p> <p>令和元年度 ・黒川上山墓跡保存整備事業 保存整備工事(保護盛土表面固化舗装 等)</p>

3 令和3年度末実績の点検及び評価

<p>・黒川上山墓跡保存整備事業 今年度は昨年度までに施工してきた遺構保護盛土の一部について、流出防止のための固化舗装を行った。なお、国(文化庁)の補助金が要望額を大きく下回る状況が続いているため工事の発注がこま切れとなっており、当初の計画に遅れが生じてきている。早期の保存整備工事完了と更なる活用事業の展開を目指し、補助金の獲得に向けた国・県との協議を進める必要がある。</p> <p>・活用事業の実施(黒川フェスティバル) 例年開催している黒川フェスティバルについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施を見送った。今後は情勢を勘案しながら、整備の進捗に合わせた多様な事業を創出するなど、更なる周知・活用に努めていく。</p>

令和3年度 主要事務

担当班	生涯スポーツ班	事務の内容	「スポーツ・イン・ライフ」の実践
目標とする指標	「スポーツ・イン・ライフ」の実践		

1 目標数値

年度別目標数値等（数値化できなものは方向）	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和3年度末実績
	令和3年度	スポーツ人口、スポーツ団体ともに高齢化・減少化にあり、またスポーツ施設が一時休館するなど利用制限もあった。	スポーツを「する・みる・ささえる」活動を推進する。	スポーツを「ささえる」では、中止にはなったが、聖火リレー事業で多くの運営スタッフに恵まれた。
	目標年度		カヌー・キャンプイベントを開催する。	コロナステージ2のため中止になった。
	令和7年度	三つの間（「時間」「空間」「仲間」）や既存のスポーツに捉われない日常生活の中で自然にスポーツに親しむ「スポーツ・イン・ライフ」の実践	「スポーツ・イン・ライフ」の認識普及	実施できなかった。

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
生涯スポーツ推進事業	<p>それぞれの興味、関心、ライフステージ等に応じて、「する・みる・ささえる」などの活動を知り、スポーツを日常生活に位置付け、主体的にスポーツを楽しむために、各種スポーツイベントの開催を通じて、町民に広くスポーツに参加する機会を提供する。</p> <p>運動競技だけでなく身体活動もスポーツであり、最近では散歩や健康体操もスポーツと捉えられている。 上市町の豊かな自然環境を活用し、町民に野外活動を紹介することでスポーツに対する関心と理解を深めていく。</p> <p>日常生活の中に自然とスポーツが取り込まれている「スポーツ・イン・ライフ」という認識を広め、スポーツをするきっかけづくりを提供する。</p>
野外活動普及事業	
「スポーツ・イン・ライフ」啓発事業	

3 令和3年度末実績の点検及び評価

生涯スポーツ推進事業	東京2020オリンピック聖火リレー事業は、たくさんの協力スタッフに関わってもらっても直前に沿道走行は中止になった。また、各種スポーツイベントも開催には例年以上のスタッフ数を確保する必要があり、確保できず中止になることがあった。3密対策も大事だが、スタッフ数を考慮した大会規模や内容検討する必要がある。
野外活動普及事業	キャンプイベントはコロナステージが2に上がったことにより中止になった。早乙女湖でのカヌー教室は好評だった。その際リゾート地で好評のアクティビティの一つSUP(スタンドアップパドルリング)乗り体験を実施し子供たちに大変好評だった。B&G財団では備品購入助成事業があるので申請したい。
「スポーツ・イン・ライフ」啓発事業	「スポーツ・イン・ライフ」の普及を具体的に進められなかった。第一生命保険と包括連携協定を結んだので、他市町村の好事例を参考に啓発していきたい。

令和3年度 主要事務

担当班	生涯スポーツ班	事務の内容	生涯に渡りスポーツを楽しむ環境の整備
目標とする指標	地域への新規クラブ設置数		

1 目標数値

年度別目標数値等は方向化で	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和3年度末実績
	令和3年度	児童、生徒数の減少に伴い、中学校部活動数の維持が将来困難である。	地域クラブ設置に向け競技協会、スポーツエキスパート、指導員等に地域移行に向けた方針を説明する。	部活動のあり方検討会を開催した。
	目標年度			
	令和7年度	地域への新規クラブ設置数 5~10クラブ		

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
地域部活動推進事業	地域の各競技協会、スポーツ少年団、スポーツ指導者等と連携し地域に新しくクラブを設置し、中学校部活動を移行する。地域に活動場所を移行することで、子供たちの活動の場と機会の確保を図る。また、指導者の資質向上や競技団体の活性化を図る。
上市町総合スポーツクラブの充実	上市町総合スポーツクラブとスポーツ関係団体との連携を促進させることで、ガバナンスの強化を促し、指導者の確保やニーズに応じた教室の増加に繋げることで、クラブの認知度を上げ、自立的なクラブ運営を促進する環境を整備する。
健康運動能力向上支援事業	プレ・ゴールデンエイジ期に、各専門指導者を保育園や小学校に派遣することで多様な運動経験を積み、運動能力やコミュニケーション能力の向上を図る。

3 令和3年度末実績の点検及び評価

地域部活動推進事業	今年度は体育協会、地域の競技協会、学校部活動外部指導者、スポーツクラブ指導者等が集まり議論する、部活動のあり方検討会を2回実施した。地域移行に向けた方針の説明や課題について、協議することができた。子どもたちの豊かな生活につながる活動環境整備について話し合いを進めていきたい。
上市町総合スポーツクラブの充実	総合スポーツクラブの教室開催や地域のスポーツ団体との連携を促進することで、スポーツ指導者の確保や各団体のニーズについて把握することができた。登録認証制度への理解を深めるとともにクラブの認知度を上げていくことで、自立的なクラブ運営につなげたい。
健康運動能力向上支援事業	5歳~8歳にかけて継続的に運動指導を行うことで、運動習慣の定着が見られたり運動が好きとこたえる子どもの数が増えた。専門指導者を派遣することで、普段とは違う運動体験を経験させることができた。将来的な運動習慣の定着と運動能力の向上につなげられるよう、各派遣先と話し合いを進めていきたい。

令和3年度 主要事務

担当班	生涯スポーツ班	事務の内容	スポーツ施設の整備
目標とする指標	施設修繕件数と備品整備件数		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化で きかないものは方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和3年度末実績
	令和3年度	スポーツをする環境の充実 水銀灯照明のLED化	修繕:5件 備品購入:2件 LED化:1施設	修繕:4件 備品購入:3件 LED化:1施設
	目標年度			
	令和7年度	水銀灯照明のLED化 4施設		

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
社会体育施設整備事業	社会体育施設の長寿命化、機能向上やLED電球への置換工事等の環境整備や施設利用者間の利用調整を進めることで施設利用の促進を図る。
学校開放施設整備事業	グラウンド付属設備(照明設備・防球ネット等)をはじめとする学校開放事業に係る環境整備を行うことや施設利用者間の利用調整を図る。

3 令和3年度末実績の点検及び評価

社会体育施設整備事業	<p>今年度は、B&G財団の補助金を活用し上市町B&G海洋センター体育館の大規模改修を行い施設の環境を整備した。また、体育センター弓道場屋根の塗装など、他施設の庁寿命化工事を行った。</p> <p>引き続き施設照明のLED化等を進めていきたい。</p> <p>また、社会体育施設の老朽化が著しいため、引き続きこまめな点検・修繕が必要である。備品の購入について、体育センターに新たに卓球台を配備した。</p>
学校開放施設整備事業	<p>グラウンドナイター照明について、予算要求をし、次年度から順次整備できるよう準備をした。</p> <p>小学校ごとに利用頻度が異なるので、利用状況を確認し優先順位をつけて整備を進めていきたい。</p> <p>備品について、ネット競技(バドミントン、バレー等)で使用するポールの老朽化が進んでいるため、次年度に向けて整備する準備を行った。</p>